

岐阜県徳山村及びその周辺地域の わらべうたの伝播・伝承について (I)

—— 徳山村のわらべうた ——

高木靖弘・仲野悦子

On the Transmission of Children's Folksongs in and around Tokuyama Village, Part I

—— The *Warabeuta* (Children's Folksongs) in Tokuyama Village ——

Yasuhiro Takagi and Etsuko Nakano

For the last two years we have investigated children's folksongs in and around Tokuyama village. In this paper we report a result of the investigation, that is, what kinds of folksongs survived in Tokuyama, and how they underwent changes, if any.

はじめに

新たにこの稿を起すにあたって、これに至る経過を簡単に述べることとする。

1978年4月、地域の児童文学・児童文化に関係する研究者を集めて、岐阜児童文学研究会「民話研究のつどい」が結成された。その目的は、岐阜県の民話集成及び、民話研究を基礎にしながら、地域に根ざした児童文化・児童文学の質的向上をめざすことにあった。その研究会に参加した私たちは、当時、水資源開発のため、ダム建設により全村水没するといわれて久しい、岐阜県揖斐郡徳山村を調査対象として選んだ。スタッフは、昔話の採集調査を棚橋美代子（中京女子大学）と野部博子（滋賀県立短期大学）が担当し、わらべうたの採集調査を高木靖弘（本学）と仲野悦子（本学）が担当した。

1978年夏以来、1983年夏までの6年に亘った調査は、「岐阜県徳山村の口承文芸に関する調査報告(第1報～第17報)」(本学紀要、中京女子大学紀要、及び滋賀県立短期大学学術雑誌所載)として報告した。その成果のうえにたって、その際、今後の課題としたわらべうたの伝播・伝承について、村内各世代から出来得る限りの聞きとり調査を行う、更に、徳山村周辺地域にまで調査の手を拡げる、という二つの課題をもって、昨84年夏より、徳山村内及び、その下流域の藤橋村東横山地区の調査にとりかかった。

徳山村の状況は、1983年11月の補償基準妥決以降、事態が一気に進展し、昨1984年夏より岐阜市周辺地区への移住が始まり、1年を経た本年8月末までには、全村約500戸のうち、ほど200戸が移住を

終えている。

この調査を行った1984年7月～1985年3月にかけては、新移住地での住居建築が行われている時期でもあり、村内を留守にする人も多く、目的とする演唱者に会えないということも少なくなかった。そんな中で、世代の異なる22名の演唱者から、69曲のわらべうたが採集できたのは大きな成果であった。

なお、この研究は、昭和59年度文部省科学研究費補助金一般研究(C)により行ったものである。

I 徳山村のわらべうた

「岐阜県徳山村の口承文芸に関する調査報告」第1報、第3報、第6報、第7報、第10報、第16報及び第17報のわらべうたに関する項ですでに述べたごとく、前回の調査では、25名の演唱者から延105曲のわらべうたを採集した。その演唱者の年齢は、明治、大正生まれが主で、昭和初年生まれがわずかに2名にすぎず、現在私たちが直接に取材できる最も古い世代（明治中期～明治末年生まれの世代の演唱者に、私たちは仮りに第一世代と名づけた）のわらべうたが主体になっていた。村内のわらべうたの伝播・伝承についても、その第一世代を中心に検討を加え、述べたものである。

それに対して今回の調査では、演唱者の年齢は、大正中期以後、昭和10年頃までの生れのものが大半で、いわば、第二世代、第三世代のものが中心である。また今回の特色は、当時の遊び仲間にグループで集ってもらうことが出来た結果、複数の記憶が合わさって、当時の遊び、わらべうたが、ほぼ正確に再現され、伝承の微妙な変り目などもうかがい知ることができた。短期間に集中して、22名の多きを数える演唱者に会うことができ、69曲のわらべうたを採集することができた。また、その中には、16曲の新らたに採集した曲（以後新曲という）も含まれており、大きな収穫を得た。

1. 演唱者について

別表1に見るとおり、塚地区2名、戸入地区4名、本郷地区16名、計22名の演唱者に会うことができた。

塚地区の山本ひさ子氏は、唯一の明治生まれで、娘の村沢とも子氏（上開田在住）の案内で会うことができた。採集曲6曲のうち2「十銭二十銭」は、徳山で得た全くの新曲である。

戸入地区の4名は、それぞれ自宅へ伺ってお会いした。早川政子氏は戸入地区で古くから食料雑貨商を営む、当時の遊び仲間は今ここにはいないと語られた。川口ひで子氏は移住地への引越し準備に忙しいかたわらお会いした。採集した7曲のうち、19「あしたてるか今日てるか」21「お

別表1 演唱者一覧

地区	氏名	(生年月日)
塚	山本ひさ子	(M.43.3.21)
	村沢とも子	(S.9.1.10)
戸入	早川政子	(T.7.3.8)
	川口ひで子	(T.13.10.27)
	木本サカエ	(S.7.10.15)
	平方浩介	(S.11.)
本郷	瀬里崎ちよの	(T.4.)
	近藤千代子	(T.8.)
	北村くにえ	(T.10.10.)
	北村あや	(T.10.3.4)
	北村ひらえ	(T.11.3.12)
	中村きよ	(T.11.4.7)
	根尾やす	(T.11.)
	根尾いち子	(T.13.4.13)
	根尾はる	(T.14.2.18)
	根尾つるえ	(T.14.4.28)
	渡辺あきえ	(S.2.8.)
	江口あや	(S.2.4.)
	中村たつ子	(S.3.1.)
	江口テル	(S.3.11.)
	北村ゆき	(S.3.11.)
	村山千代香	(S.10.10.16)

つぎお入り」の2曲は新曲で、22「ねんねねてくりよ」の子守唄は、詞は、他の徳山の子守唄「ねんねころいち」と同じであるが、本人独自の傾向かも知れないが、独特の節まわしであった。木本サカエ氏は、主婦で、歌ってもらった子守唄は徳山在来のものであった。平方浩介氏は、初めての男性演唱者で、氏自身が児童文学者のせいもあって、子ども時代の遊びを数多く伺った。そんな中で出たわらべうたは、6曲とも男性でなければ歌えないような面白いものであった。

本郷地区で、演唱者が16名の多きを数えたのは、子ども時代の遊び仲間のグループ毎に集まってもらった結果である。大正前期生れ、後期生れ、そして昭和初期生れというふうに集まってもらい、採集の場を設けることができた。瀬里崎ちよの氏、近藤千代子氏（穂積町在住）の二人はいとこ同志で、一緒に遊び、育った仲である。たまたま近藤氏の御夫君が鮎釣りに同伴された時に、お話を伺うことができた。三月半ば、春の遅い徳山村ではまだ雪の中である。外仕事の出来ないこの時期であったので、大勢の人に集ってもらうことができた。大正10年代生れの8名が集まり、にぎやかな場がもたれた。北村くにえ氏、北村あや氏、北村ひらえ氏、中村きよ氏、根尾やす氏、根尾いち子氏、根尾はる氏、根尾つるえ氏である。全員が当時の遊び仲間、記憶を補い合い、遊びを再現しながら23曲ものわらべうたを歌ってくれた。次の昭和初期生れの年代は、渡辺あきえ氏、江口あや氏、中村たつ子氏、江口テル氏、北村ゆき氏の5名で、前グループ同様本郷在住の子ども時代の遊び仲間である。前グループとあまり年代のひらきがないせいか、15曲のわらべうたを採集したが、前グループのものと重複するものが少なかった。しかし、後に詳述する伝承・伝播を考えるうえで興味ある事実を伺うことができた。村山千代香氏は、昭和10年生れで、第2次大戦後の大変な時期に子ども時代を過ごしたが、徳山の代表的なわらべうたを忠実に伝承している。

2. 採集わらべうたについて

別表2に見られる如く、全69曲であるが、同歌の重複を省いていくと37曲である。そして既報「岐阜県徳山村の口承文芸に関する調査報告」ではまだ見出していなかった曲が、今回の調査で16曲も含まれている。ここでは、その16曲の新曲について註釈を加えるも、既出の21曲については、同歌の整理にとどめる。

なお、別表1に付した曲番は、採集順であり、今回新たにおこしたものである。楽譜は後掲の資料を参照されたい。

・^{とおせん}十銭二十銭（曲番、2, 16, 45, 67）てまり唄

塚（曲番2）、戸入（曲番16）、本郷（曲番45, 67）で採集、演唱者の年齢も明治生まれから昭和初期生まれまでで、徳山では相当古くから歌われてきたと考えられる。詞は4曲とも全く同一で戸入のもの（曲番2）だけが、くり返し歌われることから少し違う。いずれの曲も手まり唄にはめずらしく3拍子で、旋律も戸入のものを除いて3曲は全く同一である。

・おおなみなみで雪降る晩に（曲番12, 69）縄とび唄

いずれも本郷にて若い世代より採集。この曲については項を改めて述べるが、大正生まれの歌う「おおなみなみ」（曲番、54, 68）とは別の曲で、ある時期で、はっきりと曲が変わってしまった典型を示

別表2 徳山村わらべうた一覧

曲番	題名	分類	採集地	採集期日	演唱者(生年)
1	こっから見えるは	て ま り 唄	塚	1984. 7 .23	山 本 ひさ子 (M.43)
2	十銭二十銭	て て ま り 唄	塚	"	山 本 ひさ子
3	竹のこの出だし	て て ま り 唄	塚	"	山 本 ひさ子
4	ここのおきくは	て て ま り 唄	塚	"	山 本 ひさ子
5	れんげの花と桜の花と	て て ま り 唄	塚	"	山 本 ひさ子
6	たしかにたしかに	て て ま り 唄	塚	"	山 本 ひさ子
7	ぜんまいわらび	鬼 き め 唄	本 郷	1984. 8 . 3	瀬里崎 ちよの (T. 4) 他
8	こっから見えるは	て ま ま り 唄	本 郷	"	近 藤 千代子 (T. 8) 他
9	じゃんじゃんじゃりかくし	鬼 あ そ び 唄	本 郷	"	村 山 千代香 (S.10)
10	ぜんまいわらび	鬼 き め 唄	本 郷	"	村 山 千代香
11	ねんねころいち	子 守 唄	本 郷	"	村 山 千代香
12	おおなみこなみで雪降る晩に	縄 と ま り 唄	本 郷	"	村 山 千代香
13	一かけ二かけ三かけて	て ま ま り 唄	本 郷	"	村 山 千代香
14	一列らんばん	手 ま り 唄	本 郷	"	村 山 千代香
15	おかこおかこ	子とり鬼あそび唄	本 郷	"	村 山 千代香
16	十銭二十銭	て ま り 唄	戸 入	1984. 8 . 6	川 口 ひで子 (T.13)
17	いっちょめのぶんど	て て ま り 唄	戸 入	"	川 口 ひで子
18	おひとつおひとつ	お 手 玉 唄	戸 入	"	川 口 ひで子
19	あしたてるか今日てるか	天 気 占 い 唄	戸 入	"	川 口 ひで子
20	坊さん坊さん	鬼 あ そ び 唄	戸 入	"	川 口 ひで子
21	おつきお入り	縄 と ま り 唄	戸 入	"	川 口 ひで子
22	ねんねねてくりょ	子 守 唄	戸 入	"	川 口 ひで子
23	ねんねねてくりょ	子 守 唄	戸 入	1984. 8 . 7	早 川 政 子 (T. 7)
24	ねんねねんねと	子 守 唄	戸 入	"	早 木 本 サカエ (S. 7)
25	べろべろの神さま	占 い あ そ び 唄	戸 入	"	平 方 浩 介 (S.11)
26	ひとりふたりさるめの子	鬼 き め 唄	戸 入	"	平 方 浩 介
27	あしたてるか今日てるか	天 気 占 い 唄	戸 入	"	平 方 浩 介
28	とんびんつびょ	は や し 唄	戸 入	"	平 方 浩 介
29	女ん衆の木登り	は や し 唄	戸 入	"	平 方 浩 介
30	ひろしひがつく	は や し 唄	戸 入	"	平 方 浩 介
31	いとちゃんいとちゃん	て て ま り 唄	塚	1984. 8 . 8	村 沢 とも子 (S. 9)
32	でんでんたたくは	て て ま り 唄	本 郷	1985. 3 .15	根 尾 いち子 (T.13) 他
33	うちのおきくは	て て ま り 唄	本 郷	"	中 村 きよ (T.11) 他
34	ぎりぎりちゃん	手 あ わ せ 唄	本 郷	"	北 村 あや (T.10) 他
35	ねんねん坊の手には	子 守 唄	本 郷	"	北 村 くにえ (T.10) 他
36	ねんねねんねと	子 守 唄	本 郷	"	根 尾 やす (T.11) 他
37	一かけ二かけ三かけて	て ま ま り 唄	本 郷	"	根 尾 はる (T.14) 他
38	一でたばな	て て ま り 唄	本 郷	"	根 尾 いち子 他
39	たしかにたしかに	て て ま り 唄	本 郷	"	根 尾 やす 他
40	てんまりてんまりや	て て ま り 唄	本 郷	"	中 村 きよ 他
41	わしんとこのちしゃ畑に	て て ま り 唄	本 郷	"	根 尾 いち子 他
42	おひとつおひとつ	お 手 玉 唄	本 郷	"	根 尾 つるえ (T.14) 他
43	がながたもれ	くぐりあそび唄	本 郷	"	根 尾 いち子 他
44	おかこおかこ	子とり鬼あそび唄	本 郷	"	北 村 ひらえ (T.11) 他
45	十銭二十銭	て ま り 唄	本 郷	"	根 尾 いち子 他
46	こっから見えるは	て て ま り 唄	本 郷	"	根 尾 いち子 他
47	一列らんばん	て て ま り 唄	本 郷	"	根 尾 いち子 他
48	いちじくになじん	お は じ き 唄	本 郷	"	根 尾 いち子 他
49	ちょうだいさん	て ま り 唄	本 郷	"	根 尾 いち子 他
50	かくれんぼにまくらんぼ	かくれ鬼きめ唄	本 郷	"	根 尾 いち子 他
51	じゃんじゃんじゃりかくし	鬼 あ そ び 唄	本 郷	"	根 尾 いち子 他
52	高い山から	昔 話 挿 入 歌	本 郷	"	根 尾 いち子
53	坊さん坊さん	鬼 あ そ び 唄	本 郷	"	根 尾 いち子 他
54	おおなみこなみで	縄 と ま り 唄	本 郷	"	根 尾 いち子 他
55	おおさいどりか	手 あ わ せ 唄	本 郷	1985. 3 .16	北 渡 村 ゆき (S. 3)
56	おかこおかこ	子とり鬼あそび唄	本 郷	"	江 渡 辺 あきえ (S. 2) 他
57	がながたもれ	くぐりあそび唄	本 郷	"	江 口 あや (S. 2) 他
58	じゃんじゃんじゃりかくし	鬼 あ そ び 唄	本 郷	"	中 村 たつ子 (S. 3) 他
59	坊さん坊さん	鬼 あ そ び 唄	本 郷	"	江 渡 辺 テル (S. 3) 他
60	ぜんまいわらび	鬼 き め 唄	本 郷	"	渡 辺 あきえ 他
61	おひとつおひとつ	お 手 玉 唄	本 郷	"	渡 辺 あきえ 他
62	こっから見えるは	て て ま り 唄	本 郷	"	渡 辺 あきえ 他
63	ここのおきくは	て て ま り 唄	本 郷	"	渡 辺 あきえ 他
64	一かけ二かけ三かけて	て て ま り 唄	本 郷	"	渡 辺 あきえ 他
64	一列らんばん	て て ま り 唄	本 郷	"	渡 辺 あきえ 他
66	ねんねころいち	子 守 唄	本 郷	"	渡 辺 あきえ 他
67	十銭二十銭	て ま り 唄	本 郷	"	渡 辺 あきえ 他
68	おおなみこなみ	縄 と ま り 唄	本 郷	"	渡 辺 あきえ 他
69	おおなみこなみで雪降る晩に	縄 と ま り 唄	本 郷	"	北 村 ちよき 他

す曲である。

・あしたてるか今日てるか（曲番19, 27）天気占い唄

この2曲は戸入で採集した。全く同一の曲であるが、お天気占いの方法に違いがあった。前者の方は、ぞうりを投げ上げて裏か表かで天気を占うのに対し、後者の方は、きいちがり（えんごさく）の花をとって、それを指先でつぶす時にパチッといい音がして破れたら天気が良いとって占ったとのことである。

・おつぎお入り（曲番21）

戸入で採集した縄とび唄である。現在でも全国的に歌われている「お嬢さんお入り」の類歌である。

・べろべろの神さま（曲番25）占いあそび唄

戸入の平方浩介氏が歌ったもので、遊び方は、木の小枝や笹竹の先を折ってくの字に曲げ、両手を合わせた間にはさみ込み、グルグル回し、歌い終わった時に折れ曲がった枝先が指し示した子どもが助平であると云ってはやしたてて遊んだとのことである。全国的にも「へろへろの神さま」という類歌があり、これは屁をした者をあてる時に歌われる。

・とんびんつびよ（曲番28）はやし唄

これも平方氏が歌ったもので、鳶が空に舞っているのを見つけると、下から見上げながらこの唄を歌ってはやしたてたのだそうである。ちなみに「つび」とは徳山村の方言で、女性性器のことをいう。

・女ん衆の木登り（曲番29）はやし唄

これも平方氏が歌ったもので、女の子をいじめたり、お転婆な女の子をからかったりする時に歌ったとのことである。

・ひろしひがつく（曲番30）はやし唄

これも平方氏が歌ったもので、子ども同志がけんかをした時などに悪口として歌ったものである。一方が相手の名前を入れて歌うと相手も同様に「こうすけこがつく」と歌い返すのである。上記3曲は、いずれも男の子にしか歌えないような唄である。

・いとちゃんいとちゃん（曲番31）てまり唄

塚の村沢とも子氏から採集した曲で、テンポの早いてまり唄である。もちろん徳山村では初めての曲で、全国的にも類歌はあまり見出せない。

・ぎりぎりちゃん（曲番34）手あわせ唄

本郷で採集した曲で、所作つきの手あわせ唄である。各節のくり返し部分の所、例えば最初のフレーズ「まつやまスッテンショで東を見ればね見ればね」の見ればねの所で、小手をかざして遠くを見る様な所作をするのである。

・一でたちばな（曲番38）てまり唄

同じく本郷で採集した曲で、数え歌形式の手まり唄である。既出門入の清生八重子氏が歌った「ことしはじめて」⁽¹⁾の一部分にこの曲と同一の詞が出てくるが、一方は子守唄、こちらはてまり唄、旋律も異なり、全く別の物である。

・がながんたもれ（曲番43, 57）くぐりあそび唄

本郷の根尾いち子氏、江口あや氏から採集した。遊び方は、2人の子が向い合って両手をつなぎ門を作る、他の子ども達は列を作ってその門をくぐる、歌い終わった時に門を下ろしつかまった子が交代して門の子となるのである。詞の意味は不明。

・いちじくにんじん（曲番48）おはじき唄

本郷根尾いち子氏より採集、数え歌になっており、おはじきを一つ二つととっていく時に数える歌として歌われた。

・ちょうだいさん（曲番49）てまり唄

本郷根尾いち子氏より採集、既出下開田の江崎さき氏が歌った「今日発つか明日たつか」⁽²⁾と同歌と見られる。江崎氏のものは前段部分が欠落したものと思われる。

・かくれんぼにまくらんぼ（曲番50）かくれ鬼きめ唄

本郷根尾いち子氏より採集、かくれんぼをするときの鬼をきめる時に歌われたものである。

・高い山から（曲番52）昔話挿入歌

これも同じく根尾いち子氏より採集、この曲は、昔話「ねずみの恩がえし」という話の中で歌われる歌で、二番目の詞に意味がある。

以上16曲が、今回初めて徳山で採集できた曲である。次にあげる21曲は、既に徳山村で採集されており、既報「岐阜県徳山村の口承文芸に関する調査報告」を参照されたい。

- ・こっから見えるは 曲番 1, 8, 46, 62
- ・竹の子の出だし " 3
- ・ここのおきくは " 4, 33
- ・れんげの花と桜の花と " 5
- ・たしかにたしかに " 6, 39
- ・ぜんまいわらび " 7, 10, 60
- ・じゃんじゃんじょりかくし " 9, 51, 58
- ・ねんねころいち " 11, 22, 23, 24, 36, 60
- ・一かけ二かけ三かけて " 13, 37, 64
- ・一列らんぱん " 14, 47, 65
- ・おかこおかこ " 15, 44, 56
- ・いっちょめのぶんど " 17
- ・おひとつおひとつ " 18, 42, 61
- ・坊さん坊さん " 20, 53, 59
- ・ひとりふたりさるめの子 " 26
- ・でんでんたたくは " 32
- ・ねんねん坊の寺には " 35
- ・てんまりやてんまりや " 40

- ・わしんとこのちしゃ畑に 〃 41
- ・おおなみこなみで 〃 54, 68
- ・おおさいどりか 〃 55

II 徳山村のわらべうたの伝承

今回の調査で本郷を中心に異なった世代から多くの資料が得られた結果、徳山村におけるわらべうたの伝承形態がおぼろげながら浮び上ってきた。ここでは、まず全般的傾向を述べ、次に特徴的な二つのケースをとりあげて検討してみることにする。

1. 徳山村本郷における伝承の傾向

本郷における演唱者の世代を見てみると、明治生まれの第一世代、大正前期生れの第二世代、大正後期から昭和初期生れの第三世代、そして昭和10年前後の生れの第四世代と分けることできる。そしてそれぞれの世代から採集した資料を整理すると次の様になった。

第一世代から第四世代までに見られるもの

- ・ねんねころいち
- ・こっから見えるは
- ・ぜんまいわらび

第一世代から第三世代までに見られるもの

- ・ここのおきくは

第一世代から第二世代までに見られるもの

- ・でんでんたたくは
- ・てんまりやてんまりや
- ・たしかにたしかに
- ・わしんうしろのちしゃ畑に

第二世代から第四世代までに見られるもの

- ・一かけ二かけ三かけて
- ・一列らんぱん
- ・じゃんじゃんじょりかくし
- ・坊さん坊さん

第二世代から第三世代までに見られるもの

- ・おおなみこなみで
- ・おかこおかこ
- ・おひとつおひとつ
- ・十銭二十銭

・がながんたもれ

第三世代から第四世代までに見られるもの

・おおなみこなみ雪降る晩に

以上のような実態である。このことから次の様なことが考えられる。

一つには子守唄『ねんねんころいち』、てまり唄「こっから見えるは」、鬼きめ唄「ぜんまいわらび」などは古くから伝えられ、徳山を代表するわらべうたといえることができる。

二つ目には多くのてまり唄の中にはすでに途切れてしまって近年まで伝わっていないものがある。

三つ目には、「一かけ節」や「一列らんぱん」の様な全国的に流布した曲が、大正末期から遅くとも昭和初期には入って来ている。

四つ目には、古い形のじょりかくし（くねんぼ型）から新しい形のじょりかくし（お寺の坊さん型）へ、縄とび唄「おおなみこなみ」が、どぼんしょ型から雪降る晩型に変わるといのように、それぞれの転換点をほぼ特定することができる。

ということである。次の項では四つ目の問題を更に深く検討してみることにする。

2. じょりかくし、おおなみこなみ。伝承の転換点

本郷では二つの形のじょりかくしがある。その一つは、くねんぼ型といわれるもので、明治生れの人から採集したものである。

じょりかくしくねんぼ まったいこにてっしりこ

てっしりことうって まつもとまあまあ

じょうりきじょうまん たんこんちきりきしょ⁽³⁾

この曲が第二世代の人には伝わってなくて、新しい形のお寺の坊さん形(曲番51)に変わってしまった。このことから、同じじょりかくしの遊びが、ここ本郷では、大正末期から昭和初期にかけての時期に、揖斐川下流域から入って来たものと考えられる。そして、それが村の奥の方に伝播していったと考えることもできる。ちなみに、徳山村最奥の塚地区では、同じ第二世代の人がくねんぼ型で遊んでいる⁽⁴⁾。

同様な例で、縄とび唄おおなみこなみ(曲番54, 68)が、おおなみこなみ雪降る晩に(曲番12, 69)に変わる時期がせまい範囲で特定できたことである。

曲番54, 68

おおなみこなみで ひっくりかえしてどぼんしょ

曲番12, 69

おおなみこなみで 雪降る晩に

だれかひとりで あっちを向いて今晚は

こっちを向いて今晚は

この二つの詞を並べて見ると、歌い出しの「おおなみこなみ」の部分と同じだけで、後半部分は著しく変わっている。前者を歌ったのが根尾いち子氏の年代のグループ、すなわち大正10年生

れの人達である。後者を歌ったのは村山千代香氏（昭和10年生れ）である。そして、昭和2、3年生れの渡辺あきえ氏のグループが、前者を先に歌い、こういうのもやっとなら後者を歌ったのである。そして、大正10年代生れのグループは後者を、昭和10年生れの村山氏は前者を知らず、真中の渡辺氏のグループが双方にまたがっている。このことから、渡辺氏が縄とびをして遊んだ時期、昭和10年代のそう遅くはない時期に、後者が徳山の地に入って来たということができる。さらに後者の歌をもう少しつきつめてみると次の様なことが分かった。

雪の降る夜

作謡 北原白秋

作曲 瀬野作平

大雪，小雪，雪のふる晩に，
誰かひとり，白い靴はいて，
白い帽子かぶって

大雪，小雪，雪の降る街を，
誰かひとり，あっち行っちゃ「今晚は。」
こっち行っちゃ「今晚は。」

以下略

これは、『赤い鳥』（大正9年4月号）に掲載された童謡である。後者の縄とびうたと酷似している。ただ歌い出し部分「大雪，小雪」が「おおなみなみ」に変わっただけである。瀬野作平作曲による旋律も、縄とび唄と、リズムと旋法が同じところからよく似た感じの曲となっている。この曲がある時期に何らかの型で徳山に伝わったのであろうことは予想していたが、その時期だけは、ほぼ特定できたと考える。

渡辺氏らのグループの話によると、当時、徳山出身で東京在住者の子女（昭和4年生れと6年生れの姉妹）が、毎年夏休みの間1ヶ月程を徳山で過していた。そして戦時中には疎開してきていて、一緒に遊び、この縄とびもした覚えがあるとのことであった。その姉妹が伝えたことと特定するのは早計に過ぎるが、一つの契機であったかもしれない。ちなみに、現在の徳山の子どもたちが遊んでいる縄とび唄は、雪降る晩に型である。

以上、わらべうたの伝承について述べたが、伝承形態を解明するには程遠く、やっと手がかりを得たところである。

おわりに

徳山村の現在の状況を考えると、今回の調査が、村でできた最後の調査となるのではなかろうかと思われてならない。来年3月末には村民の大半は移住を終えているだろうと思われる。散り散りになっ

た村人をたずねて、細々と聞きとり調査を続行することはできても、徳山村そのものは存在しなくなってしまうのである。そのためにも、私たちに果せられる仕事は、できるだけ多くの資料を収集して保存することであると考え。さらに、それをもとに周辺の調査も合わせて行い、少しでも伝播・伝承の実態を明らかにしたいと考える。

おわりに、今回の調査で多くの資料を得ることができたのは、偏に演唱者の方々の御協力の賜ものと、ここにあらためて22名の演唱者の方々に深大なる謝意を表する次第である。

注


- 1) 聖徳学園女子短期大学紀要第7集「岐阜県徳山村の口承文芸に関する調査報告」
(第3報) 門入のわらべうた曲番35
- 2) 全上 第9集 全上第10報塚・下開田のわらべうた曲番79
- 3) 全上 第5集 全上第1報 曲番4
- 4) 全上 第9集 全上第10報塚・下開田のわらべうた曲番75

1. こっから見えるは



こっからみえるは なごやじゃないか なごやの こどもは じんじょの
 こども ななつ やつから べにおし ろいで ごもんの そ とへ
 あすびに でたら おわかい しゅうやー こわかい しゅうに だきとめ
 られて おちちが いたいで はなして おくれ おちちが いとても
 はなせん からや ほんが くるやら おびかて おくれ あか いが
 よいかー しろい が よいか あか いも いやかー しろい も いやが
 とうせ はやりのー は か た お び はかた お び ちよいと ちょうびやく
 いっ かん わ た い た

2. 十銭二十銭



と お せん に じゅっ せん さん じゅっ せん よん じゅっ せん ご じゅっ せん
 ろく じゅっ せん ひち じゅっ せん はち じゅっ せん きゅう じゅっ で に かん
 わ た い た

3. 竹の子の出だし

たけのこの 出だし いやまか やまいく のでは のいく さとでは
 さといく よしわら そろえて かど に たつ かどにた
 つ ちょっと ちょうびやく さん がん わ たい た

4. ここのおきくは

ここの おきくは なぜもの くわん やーまの
 はらが いたいか なつ やみ する か
 はらに ねねこの つぼみが できて
 うむにゃ うまれず おろすにゃ おりず
 なんと いしゃどの おくすり ないか
 くすり あれども あわせて ないが
 さんしょと せきしょと こうしょと あわせて のんだら うま れましょ
 うまれましょ うまれたこが おとこのこなら てらへ
 あげて がくもん させて あたますて ごろもん きせて
 ひがしへ むいても なむあみ だぶつ にしへ むいても なむあみ
 だぶつ にしも ひがしも ごく らくじゃ ごくらく じゃ ちよと
 ちょうびやく よん かん わ たい た

5. れんげの花とさくらの花と

れんげのはなとー さくらはなと むすびあわして たすきに
 かけて こんげん どうへー ごふくに まいて いちのもん こえてー
 にもん こえて さんもん ながらは きりりと まいて むこの
 やまにー ひかるは なんじゃ つきか ほしかー ほたるの むしか
 つきでもないがー ほしでもないが じゃのめのじゃのめのー じゃの
 ひかーり じゃのひかりちよと・ちようびやく いっかん わたい た

6. たしかにたしかに

たしかに たしかに うけとり もうして ーきょうはきょうきょう ーあすは
 だいだい だいじのおてまりさーまに ーあめのゆきさにおてつき
 もうして きんしょと かんしょと あわせて わたしましょ わたしま
 しょちよと ちようびやく いっかん わたい た

7.60. ぜんまいわらび

ぜん ま い わら び な ん で こ し が ま が ん だ お や の ひ に
 さ か な く っ て ほ う し て こ し ま が ん だ

8.46.62. こっから見えるは

こっ から み える は な ご や や な い か な ご や (こ ども は) む す め は じ ん じ ょ の
 こ ども な な つ や つ か ら べ に お し ろ い で ご も ん の そ と へ -
 あ す び に で た ら お わ か い し ゅ う や - こ わ か い し ゅ う に だ き し め
 ら れ て お ち ち が い た い で は な し て お く れ お ち ち が い と て も
 は な さ ん か ら に ほ ん が く る か ら お び こ う て お く れ し ろ い が (あ か い が
 よ い か - あ か い が よ い か し ろ い も い や が - あ か い も い や が
 よ い か - し ろ い が よ い か あ か い も い や が - し ろ い も い や が)
 ち ょ う せ ん ば や り の - は か た お び ち ょ と
 (と う せ - ば や り の -)
 い つ か ん わ た い た

9.51.58. じょん じょん じょん じょん じょりかくし

じょんじょん じょんじょん じょりかくし おてらのぼんさんが
おじょりではなかんで もったいないことりこしょ
(しこしょ)

10. ぜんまいわらび

ぜんまいわらび どうしてこしまがんだ おやのひにさかなくて
ほうしてこしまがんだ

11. ねんねころいち

ねんねころいち — — たけやま よいち — — たけにもたれ
て — ねんねしな —

12. おおなみこなみで雪降る晩に

おおなみこなみでゆきふるぼんにだれかひとりで
あっちむいてこんばんは こっちむいてこんばんは

13.37.64. 一かけ二かけ三かけて



い ち か け に か け さ ん か け て し か け て ご か け て は し を か
じ ゅ う し ち は ち の ね ー さ ん が は ー な や せ ん こ う て に も つ
さ い ご う た か も り む す め で す め ー い じ じ ゅ う ね ん そ の と き




け は ー し の ら ん か ん こ し を か け は る か む こ う を
て ね ー さ ん ね ー さ ん ど こ い く の わ た し は き ゅ う し ゅ う
に せ っ ぶ く な さ れ た ち ち お や の お は か ま い り に
37 (てっばで うたれた)



な が む れ ば
か ご し ま の
ま い り ま す

14.47.65. 一列らんぱん



い ち れ つ ら ん ぱ ん は れ つ し て に ち ろ ー せ ん そ う は じ ま っ
さ っ さ と に げ る は ロ シ ア の へ い し ん で も つ く す は (あ に ほ ん の
ご ま ん の へ い を ひ き つ れ て ろ く に ん の こ し て み な ご ろ
し ち が つ よ う か の た た か い は ハ ル ビ ン ま で も せ め い っ
ク ロ バ ト キ ン の く び を と り と う ご う た い し ょ う ぱ ん ぱ ん



た い
へ い
し
て
ざ い

15. おかこ おかこ

おかこ おかこ どのこがほしや ○○いうこほしや
 なにくわいてひとねる さとまめこまめ そんなもんはどくじゃ
 たいにほねなしほかほってかましょ

16. 十銭二十銭

とおせん にじゅうせん さんじゅうせん よんじゅうせん ごじゅうせん
 ろくじゅうせん ななじゅうせん はちじゅうせん きゅうじゅうせん ひゃくもこしたら

17. いっちよめのおんど

いっちよめのおんど にちよめのおんど さんちよめのおんど よんちよめのおんど
 ごちよめのおんど ろくちよめのおんど ひちちよめのおんど はちちよめのおんど
 おんど きちちよめのおんど じちちよめのおんど いっかん おろして
 おんど
 にかんにこいよ

18. おひとつおろしておさら

おひとつ おひとつ おひとつ おろして おさら

おふたつ おふたつ おふたつ おろして おさら

おみつつ おみつつ おみつつ おろして おさら

おみ んな おさら

おちりんこ おちりんこ おちりんこ おさら

おてのせ おてのせ おてのせ おさら

おひだり おひだり おひだり だりだり おさら

ちさいはし わたれ ちさいはし わたれ おさら

おきいはし わたれ おきいはし わたれ おさら

いっちょさんの おいまけで いっちょさんの おいまけで おさら

19. あしたてるか今日てるか

あした てるか きょうてるか てんの ばばに きて みよ

20. 坊さん坊さんどこゆくの

ぼうさん ぼうさん どこゆく の わたしは たんぼの いねかり に
 わたしも いっしょに つれしゃん せ おまえが くと じゃまにな る
 かん かん ぼう ず くそぼう ず うしろの しょうめん だ ー れ

21. お次お入り

お つ ぎ お はい り ジャンケン ポン まけたら さっさと
 お に げ

22. ねんねねてくりよ

ねんね ね てくりよ ね てさ え く れりゃ ー ー おやも らくなが
 ねんね ね てくりよ ね てさ え く れりゃ ー ー しろい まんまに
 こも らく な ー ねんね ーん よいよ ー ー
 ととそえ て ー ねんね ーん よいよ ー ー

23. ねんねしてくりよ

ねんね してくりよ ーきょうはに じゅ ごんち ー あすはこの この たん
 たんじよ にち にち ー ー なにして いわう ー あずきぼたもち して
 じよ にち ー
 い わ う ー

24. ねんねねんと

ねんね ねんねと ねたこは かわい おきてなく こはつら
に く い -

25. べろべろの神さま

べろべろの かみさまは すけべ が だいすきで
すけべのほうへ むきしゃんせ むきしゃんせ

26. ひとりふたりさるめの子

ひとり ふたり さるめの こ にとって の め げんじろ べ
つゆの さきの くそさば き

27. あしたてるか今日てるか

あした てるか きょうてるか てんの ばばさん にとって みよ

28. とんびんつびよ

とんびんつびよ かくいても めーる

29. 女ん衆の木登り

おんなんしゅのきのぼり きにつびよひっかけて いたい
 ともえーいわず かゆいともえーいわず めっこり めっこり ないとっ
 た

30. ひろしひがつく

ひろしひがつく ひりやのひんすけ ひって ひられて ひりころ
 された

31. いとちゃん いとちゃん

いとちゃん いとちゃん まめ なかな とことん とことん とこやの
 ばーさん しりきって かみはって ね て ござる

32. でんでんたたくは誰さんや



でんでんたたくは だれさんや ほんまち よこちよの じへい ざん
 おまえはなにしに おいでたの せきだが かわりて きたわい の
 おまえのせきだは やすせきだ わたしの せきだは きょうせき だ
 きょうのいたやの ぜんしろが ひひとり むすめを もちかね て
 ことしはじゅうくで よめはたち よめいり どうぐは なになに や
 ぶんだいきょうだい きょうつづ ながもち ななつに おびやす じ
 するめんた一びを はっそくに まきでの けそろを じゅうさん ほん
 これほどしたてて やるほどに かならず さるなよ さられる な



さられてきたときや どうする や あたまを すって一ころもん きて



しゅもくを もって一かねもつて にしへむいても なむあみ だぶつ



ひがしへむいても なむあみ だぶつ に一しも ひがしも 一ごく らくじゃ



ごくらく じゃ ごくらく じょうどへ まいてみ りゃ けつ こ な お に わ に



いどほり かけて いどは きりいど つるべは こがね みずくみ おなごは



けしの は な けしの は な ちよいと いったん わ たい た

33.63. うちのおきく

うちの おきくは なぜもの くわん はらが いたいか なつやみ するか
 はらに ややこの つぼみが できて うむにゃ うまれず おろすにゃ おりず
 もうし このこが おんなの こなら こもに まるけて おかわへ ながし
 かわの かみさま たすけて おくれ もうし このこが おとこの こなら
 てらへ あずけて てならい させて てらの えんから つきおと されて
 いたや くちおしや なむあみ だぶつ いしゃに かかろか めいしゃに いこか
 おいしゃも - めいしゃも - - お な じ こと おなじこ と ちよいと
 いっ かん わ たい た

34. ぎりぎりちよん

ぎりぎりちよん ぎりぎりちよん まつやま スッテンショで ひがしを みればね みればね
 もんの とびーらに おさよと かいたわね かいたわね
 おさよ さよーさよ ふだんの くしはね くしはね
 だれに もろーたか げんじろさんに もらたわね もらたわね
 げんじ おとーこは はでしゃで こまるわね こまるわね
 はでしゃ みこーんで みもちと なったわね なったわね
 みもち いくーつき ななつき やつきめ やつきめ
 そこで おさーよは なみだを ポロポロ ポロポロ
 おちる なみーだを なのはで もんだわね もんだわね
 ガシャガシャ おさか でっばで ガッチンドン

35. ねんねん坊の寺には



ねんね ねんぼうの ー てーら には つちうち かねう ち たいこ うち
 はかま がのうて ー まいれ んで はかまを かーり に いった なら
 あっぱ らたち や はらた ちや あさだね みーつ ぼ こうて きて
 うんで ーしめ て のの に して そめて ーく ださ れ こうや さん
 もんの ーつけか た どうし ましよ かたには かんか ん かんつ ばき



あさから まいろ と おもうた が うちの ーぼ ーう やに ー のーーってき
 あるもの ないと て かさ なんだ
 うちの ー のきね に まいと いて
 そめて ー やるの は やす けれど
 すそには ぼたん と けし の は な



ー ー しょ ー ねんねーん ねー

36. ねんね ねんねと



ねんね ー ねんねと ー ー ねるこは か おい ー ー ー おきて
 ねんね ー ねんねと ー ー ねてさえ く れりゃ ー ー ー おやも
 ねんね ー ころいち ー ー たけやま よ いち ー ー ー たけに
 ねんね ー してくりよ ー ー きょうは にじゅ ご んち ー ー ー あすは
 たんじよ ー に ちには ー ー なにして い わう ー ー ー あずき
 ないて て くれる な ー ー なくこは に くい ー ー ー なかぬ



なくこは つら ー にく い ー ねんね ーん ね
 こもらく もり ー もら く ー ねんね ーん ね
 もたれて ねん ー ねん は ー ねんね ーん ね
 このこの たん ー じよに ち ー ねんね ーん ね
 ぼたもち して ー いわ う ー ねんね ーん ね
 こでさえ もり ー はい や ー ねんね ーん ね

38. 一でたちばな

い や あまや いちで たちばな にでかき つばた
 さんで さがりふじ しでしし ぼたん
 いつつ いやまの せんぼん ざくら
 むつつ むらさき ききょうに そめて
 ななつ なんてん やつやえ ざくら
 このつ こうみょう ちらしに そめて
 とうお とのさま あおいの ごてん

39. たしかにたしかに

たしかに たしかに うけとりもうして 一きょうはきょうきょう 一あすはだいだい
 だいじの だいじの おてまり さ一まを あめの ふるときやおつつみもうして
 こんにち こんばん むかいの むかいの いちこ さまにおわたしもうします

40. てんまりやてんまりや

てんまりや てんまりや あぶらとろとろかみゆうてい せのやぐらにこしかけて
 きょうたつか 一あすたつか あさってたつかとおもたれば そこへじょろしゅがやっけてお
 さんしんで一きよでなぬか なぬかほとけは すんだれど さうもないが一
 んじゅごんちはまだすまぬ いってみてこいはかじるしは
 かのぐるりにこうをまいて こうのぐるりにすなまいてす
 なのぐるりにまついっばん まつのこえだにとりさんばと
 りはなにどりめいしゃどり とりがよいかと どうたればよ
 わるもない お一ににかまれて じゃにのま れじゃにのま れちよと

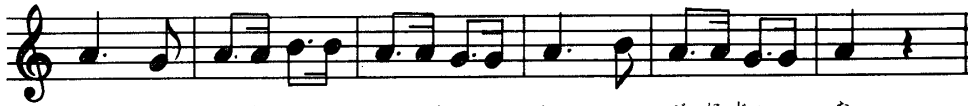


いっ かん わ たい た

41. わしんとこのちしゃばたに



わしんとこのちしゃばたに すずめがさんばーたちおりて
 いちわのやつもばーたばたにーわのやつもばーたばた
 さんばのやつこのうことによ おーらんざしきはせまけれど
 むしろさんまいごごごまい てつきりはちまいしきつめて
 ゆんべもらったはなよめを けーさのざしきにすえといて
 ほろりほりとなかしゃんす なーにがかなしめてなかしゃんす
 なにもかなしいことはない こそでのこづまにちがついて



ちかともたらべにじゃったーべにじゃった

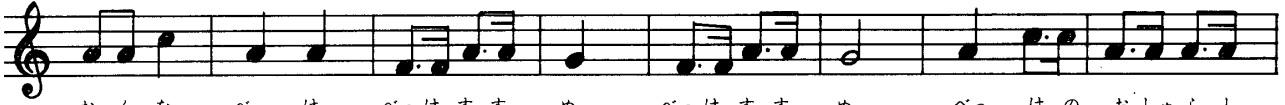
42.61. おひとつおひとつ



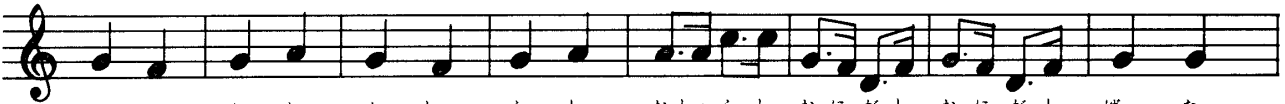
おひとつおひとつおひとつおふたつおふたつおふたつおふたつ
 おめぐりかやしてすってんばらりじょうきのじょうきのじょうきの



おみつつおみつつおみつつおみつつおみんなおでしこおでしこ
 あーみーあーみーあーみーあーみのべっけー



おんなべっけべっけすすめべっけすすめべっけのおしゃらし



おしゃらしおしゃらしおしゃらしおにがしおにがしぼった



おにがしぼったおんなもおかえしよおかえしよおかえしよおかえしよ



もみだしもみだしぼったもみだしぼったもももかいかいかけだし

ばたばた かけだし ばたばた かけの いっぴよ いっぴよ に -

ひよ さんびよ で おいとくれさんびよ で ひとあさ ひとあさ かやせば ふた
み - あさ かやせば よ -

あさ ふたあさ かやせば み - あさ いつも だんだん たかみく
あさ よ - あさ かやせば いつ あさ

ら あすは れんげの むこうの こやまに ちよとさよさが みえる はちよいと

いっかん わたい たじじも ばばもとともかい じじも ばばもいっかん しょ

43.57. がんがんともれ

が ん が ん た も れ と ご ろ の み ず は ど う ど う し て く ぐ る ま あ ま あ

こ う こ う し て く ぐ る

44.56. おかこ おかこ

お か こ お か こ ど の こ を ほ し や ○ ○ ち ゃ ん と い う こ を ほ し や

な に く わ し て し と ね る さ と ま ん じ ゅ こ ま ん じ ゅ そ ん な も ん は ど く じ ゃ お た い に

ほ ね な し め か ほ っ て か ま し ゃ そ ん な ら く れ る が な は な ん と つ け る か ら す と

つける カア カア カア カア からすのにもつは いくつくる な いまいく
ガシャガシャ ガシャ

45.67. 十銭二十銭

とおせん に じゅっせん さんじゅっせん し じゅっせん ごじゅっせん ろくじゅっせん
いちじゅっせん はちじゅっせん くじゅでちよう ど ちようびやく いっかん わ た い た

48. いちじく にんじん

いちじく にんじん さんしょ しいたけ ごぼう ろくろぎ なんきん やきもち きゅうり
とんがらし

49. ちょうだいさん

ちょうだいさん ちょうだいさん おひまおくれと もうします おひまなかなかようやらぬ わ
しといっしょに ほうこしょ ほうこなにほこ おちゃやほこ おちゃやの おえんに
こしかけて きょうたつかー あすたつか あすもたたぬがきょうもたたぬ さ

53.59. 坊さん坊さん

ぼうさん ぼうさん どこいくの わたしは たんぼの いねかりに
 わたしも いっしょに つれしゃんせ おまえがくると じゃまになる この
 カンカン ぼうず くそぼうず うしろの しょうめん だーれ

54.68. おおなみなみで

おお なみ こな み で ひっくり かえして どぼん しょ

55. おおさいどりか

おおさい どりか さいどりか べにやの こがーかねこーが
 まくらもとに おいたれば ねずみが こそこそすってらてん
 いちのき にのき さんのき さくら ごよまつ やなぎ やなぎのもとで
 ゆみいっちょ ひろって おおもり こもり ちわんの かけを くるまに
 のして それひけ だるま それひけ だるま

66. ねんねころいち



ねんね ころいち — — たけやま よいち — — たけに もたれて —
 ねんね してくよ — きょうは にじゅ ごんち — — あすは このこの —
 もりは きちがい — なくこを たたく — — たたきや よけなく —



ねんねん しょ — — ねんね — ねんねん こんこ — ねんねん
 たんじょに ち — — ねんね — ねんねん こんこ — ねんねん
 よけたた く — — ねんね — ねんねん こんこ — ねんねん

69. 大なみ小なみで雪降る晩に



おおなみ こなみで ゆきふる ばんに だれか ひとりで あっちいて



こんばんは こっちいて こんばんは ソレ いちぬけた — にぬけた